

東証プライム 4229

群栄化学工業株式会社

2025年3月期 決算説明資料

化学のココロ。

GCI

GUN EI Chemical Industry



- P 3 : 会社概要・事業内容
- P 6 : 2025年3月期 決算概要
- P 1 1 : 2026年3月期 業績予想
- P 1 6 : GCIグループ中期経営方針2024 振り返り
GCIグループ中期経営方針2030 制定について
- P 2 7 : Appendix

会社概要・事業内容

企業理念 化学の知識とアイデアでソリューションを提供し、より豊かな未来社会創りに貢献する

- 社名 : 群栄化学工業株式会社
- 本社所在地 : 群馬県高崎市宿大類町700番地
- 代表者 : 代表取締役 社長執行役員 有田 喜一郎
- 上場区分 : 東京証券取引所 プライム市場
- 資本金 : 50億円
- 従業員数 : 537人
- 国内拠点 : 群馬県、東京都、大阪府、滋賀県、岩手県
- 海外拠点 : タイ、インド、アメリカ、ドイツ



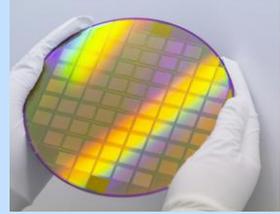
化学品事業



フェノール樹脂 他

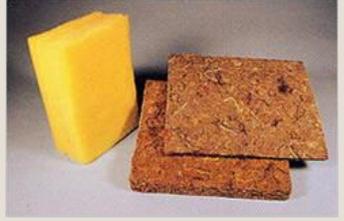


電子材料




フォトリソ用樹脂
【半導体・ディスプレイ向け】

工業材料

鋳型・摩擦材・成形材・断熱材用樹脂
【自動車・建設機械・工作機械・住宅設備向け】



フェノール樹脂繊維
(カイノール)



環境材料




活性炭・防護/耐火用繊維
【溶剤回収・航空宇宙向け】

食品事業



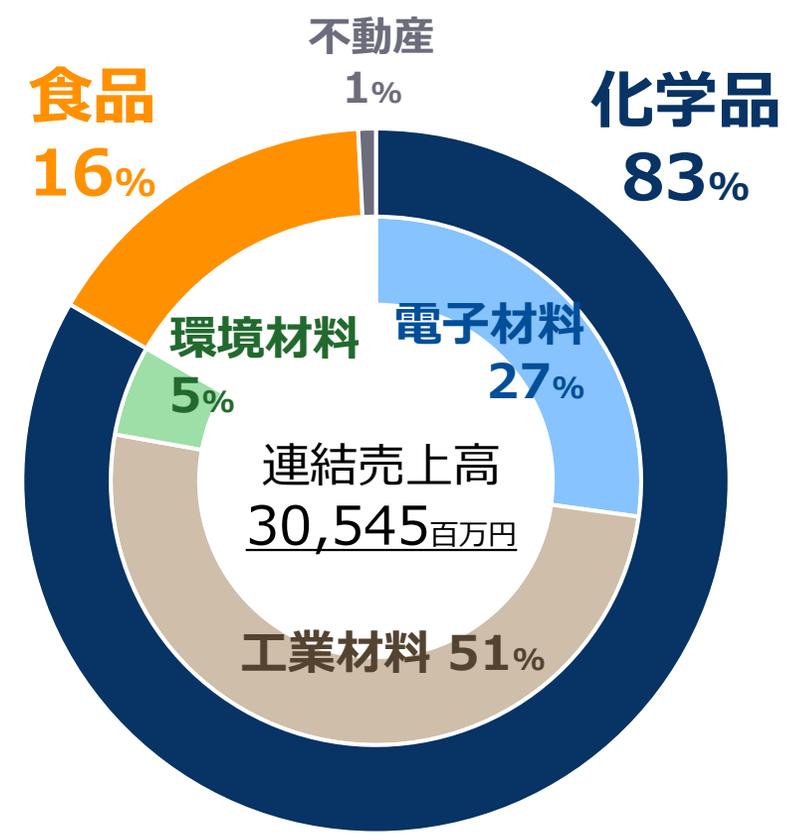
でんぷん糖類







異性化糖・水あめ・穀物糖化液
【清涼飲料・菓子・調味料・酒類・植物性ミルク向け】



2025年3月期 決算概要

- 売上高 : 溶剤回収向けカイノールが低調に推移、でんぷん糖類は商品構成の見直しにより低調に推移するも、半導体向け樹脂、ハイエンドディスプレイ向け樹脂が堅調に推移し増収
- 営業利益 : 電子材料向け樹脂の販売増加や原材料価格等高騰分の価格転嫁がさらに浸透も、その他化学品用途やでんぷん糖類の販売減少、電子材料新設備の本格稼働に伴う減価償却費の増加を受け減益

	2024年3月期	2025年3月期	増減率
(百万円)			
売上高	30,310	30,545	+0.8%
化学品	24,796	25,459	+2.7%
食品	5,265	4,840	▲8.1%
不動産	247	245	▲0.9%
営業利益	2,729	2,293	▲16.0%
化学品	2,563	2,098	▲18.1%
食品	9	34	+271.3%
不動産	156	160	+2.3%
経常利益	3,162	2,716	▲14.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,040	1,920	▲5.9%

売上高要因

+2.3億円

販売数量減少 ↘

販売単価増加 →

売上原価要因

▲5.9億円

原材料使用量減少 →

原材料単価増加 ↘

製造固定費増加 ↘

販管費要因

▲0.8億円

運送費増加 ↘

→ : 利益増加

↘ : 利益減少



	用途	販売数量 前期比	販売動向	主な取り組み
電子材料	半導体	▲	レガシー・先端向けともに緩やかに回復	<ul style="list-style-type: none"> ・新設備(投資10億円)稼働開始 ・電材新工場(投資35億円)建設開始 →'25年度上期完成、下期稼働予定 ・半導体向け製品の拡販 ・半導体後工程材料の開発着手
	ディスプレイ	▲	液晶向けは低調も、有機EL向けは液晶からの置き換えが進み堅調	
工業材料	自動車	▲	認証不正問題の影響を受け上期は低調も下期から徐々に回復し、前期並み	<ul style="list-style-type: none"> ・環境対応製品の開発、拡販強化
	機械	▲	内需・外需ともに低調	
	住宅・設備	▲	住宅向けは低調、非住宅向けは堅調	
環境材料	溶剤回収	▲	中国経済悪化の影響により低調	<ul style="list-style-type: none"> ・カイノール製造ライン増設(投資16億円) ・新規用途開発 ・品質、生産性改善
	航空宇宙	▲	防衛予算の増加を受け堅調	
食品	清涼飲料	▲	猛暑やインバウンドなど需要環境は回復も、商品構成の見直しにより当社販売は低調	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーン強化によるコストダウン
	菓子	▲		
	酒類	▲	酒税改正の影響が継続し低調	

▲ : +5%以上 ▲ : ▲5%~+5% ▲ : ▲5%以下

- 資産 : 設備投資による有形固定資産の増加等
- 負債 : 設備投資による設備関係未払金の増加等
- 純資産 : 当期純利益計上による利益剰余金の増加等

	2024年3月期 期末	2025年3月期 期末	増減	(百万円)
資産	61,010	63,018	+2,007	
流動資産	24,346	25,285	+939	
固定資産	36,664	37,732	+1,068	
負債	10,729	11,287	+557	
流動負債	7,914	8,438	+524	
固定負債	2,814	2,848	+34	
純資産	50,281	51,731	+1,450	
自己資本	48,530	49,745	+1,215	
負債・純資産合計	61,010	63,018	+2,007	
自己資本比率	79.5%	78.9%	▲0.6pt	

2026年3月期 業績予想

業界・原材料動向

- 電子材料 : AI関連投資により半導体需要は拡大、ディスプレイ需要も堅調
- 工業材料 : 自動車生産台数は緩やかに回復も、建設機械、工作機械は中国経済停滞の影響が継続、住宅市場も低調
- 環境材料 : EV市場は回復傾向も、バッテリー需要は在庫調整が継続
- 食品 : 猛暑やインバウンドにより清涼飲料は回復が継続も、健康、無糖志向の高まりによりでんぷん糖類の回復は限定的
- 原材料 : 景気減速懸念により一部値下がり傾向も、石化原料を中心に採算是正に伴う値上がりや高止まりの状態が継続

業績予想

- 売上高 : 工業材料向け樹脂、溶剤回収向けカイノール、でんぷん糖類が引き続き低調に推移も、半導体向け樹脂の販売増加が寄与し増収
- 営業利益 : 売上高増加も、原材料価格、減価償却費、運送費、人件費等の値上がりにより今期並み

	2025年3月期	2026年3月期 予想	増減率
売上高	30,545	31,000	+1.5%
営業利益	2,293	2,300	+0.3%
経常利益	2,716	2,500	▲8.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,920	1,700	▲11.5%

(百万円)

売上高要因

+4.5億円

- 販売数量減少 ↘
- 販売単価増加 →

売上原価要因

▲2.0億円

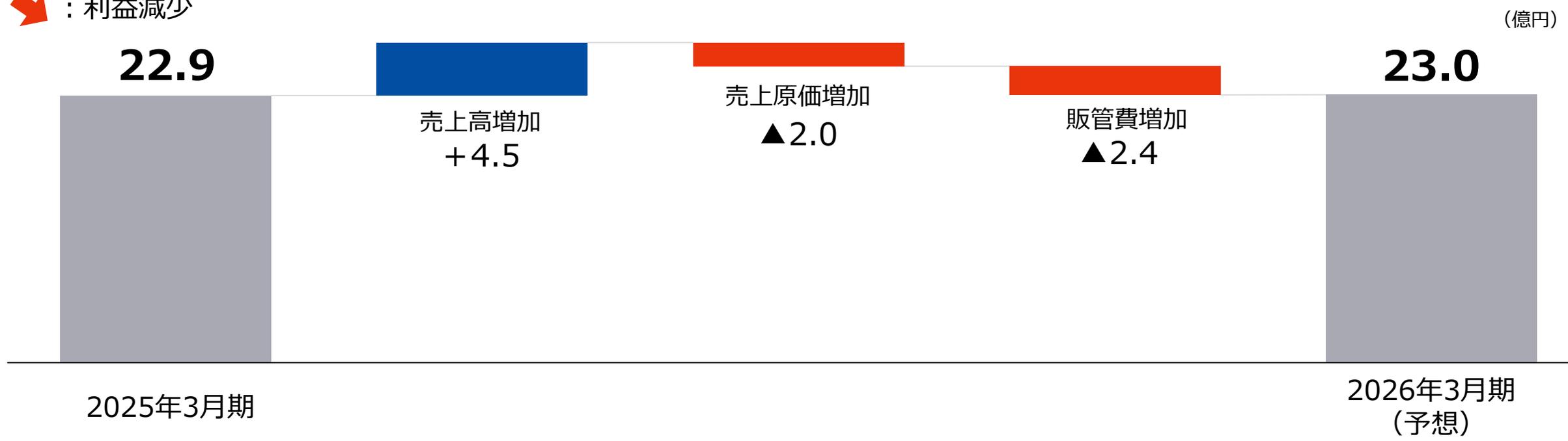
- 原材料使用量減少 →
- 原材料単価増加 ↘
- 製造固定費増加 ↘

販管費要因

▲2.4億円

- 運送費増加 ↘
- 人件費増加 ↘

→ : 利益増加
 ↘ : 利益減少



	用途	販売数量 今期比	販売動向（予想）	主な取り組み（計画）
化学品	電子材料 ➡	半導体	➡ レガシー・先端向けともに堅調	<ul style="list-style-type: none"> ・電材新工場完成、試験運転開始 ・半導体向け製品需要拡大への対応 ・半導体後工程材料の開発、拡販
		ディスプレイ	➡ 液晶向けは引き続き低調、有機EL向けは微増	
	工業材料 ➡	自動車	➡ 国内の生産台数は回復も、中国市場向け日系車の不振により低調	
機械		➡ 中国経済停滞の影響が継続		
住宅・設備		➡ 住宅向けは低調、非住宅向けは堅調も成長は鈍化		
環境材料 ➡	溶剤回収	➡ 中国EV市場は回復傾向も、バッテリー需要は在庫調整が継続し低調	<ul style="list-style-type: none"> ・カイノール新規用途開拓 ・品質、生産性改善 	
	航空宇宙	➡ 航空機、宇宙産業向けともに今期並み		
食品 ➡	清涼飲料 菓子	➡ 無糖飲料へのシフト、末端製品値上げによる買い控えにより低調	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーン強化によるコストダウン ・生産性改善 ・糖ケミカル材料の開発 	
		酒類		➡ 酒税改正の影響が継続

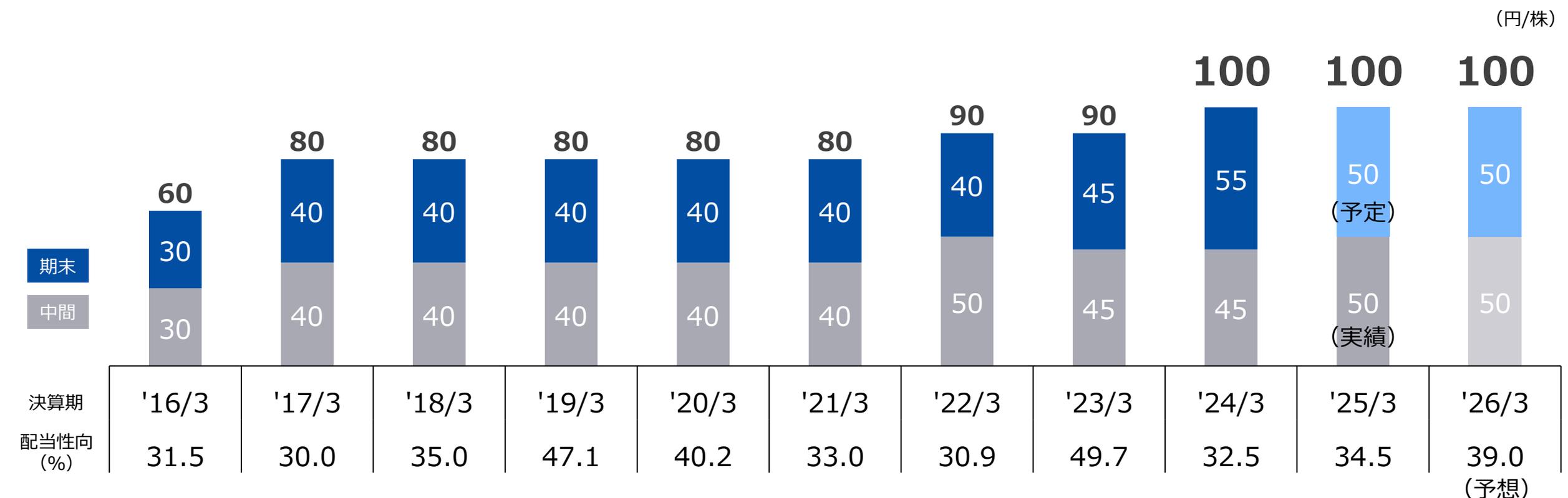
(米国関税措置の影響を見込まない)

➡ : +5%以上

➡ : ▲5%~ +5%

➡ : ▲5%以下

- 配当方針：1株当たりの配当の向上に努め、配当性向 40% を目安とした、安定的な配当を目指す
- 2025年3月期配当 100円
 中間：50円（実績）、期末：50円（予定）
- 2026年3月期配当 100円
 中間：50円（予想）、期末：50円（予想）



GCIグループ中期経営方針

2024振り返り・2030策定 について

社是

節約・勤勉・合理主義

無駄を省き、理にかなった行動で、仕事をやりぬく

理念

化学の知識とアイデアでソリューションを提供し、
より豊かな未来社会創りに貢献する

長期ビジョン（ありたい姿）

合成・糖化技術の開発・再構築によりグローバルにソリューションを提供し、社会の
持続的成長に貢献できる**“Green Chemical Industry(GCI)”**となる

基本方針

1. 新規事業創出のための基盤作り
2. サステナビリティを巡る課題への取り組み
3. 経営基盤の強化
4. 生産性向上、収益力強化

4つの目指す方向性

高純度・先端材料

環境対応ケミカル

高機能糖ケミカル

経営基盤強化

電材分野

Green分野

数値目標

財務目標 (2025年3月期)			非財務目標 (2031年3月期)
売上高	営業利益	営業利益率	CO ₂ 排出量*
350億円	40億円	11%	30%削減

*Scope 1・2, 2014年3月期比

設備投資計画

55億円（内、電子材料関連戦略投資：15億円）

主な方策

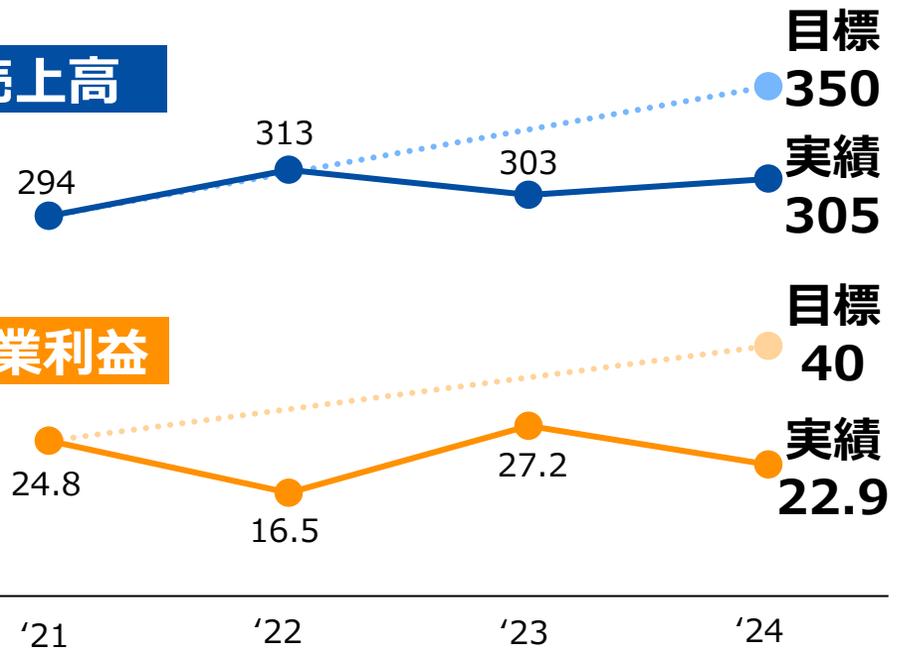
3年間の取り組み結果

高純度・ 先端材料	<ul style="list-style-type: none"> ・重点投資による事業拡大 ・先端材料分野の開発強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・樹脂製造設備 増設完了（稼働中） ・電材新工場 建設決定（建設中） ・半導体後工程材料等の新製品開発が進む
環境対応 ケミカル	<ul style="list-style-type: none"> ・環境対応製品の拡販 ・LCA対応による 環境負荷低減システム開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・カインール製造設備 増設決定（一部稼働開始） ・カインール性能アップ、新規用途展開に向けリソース強化 ・LCAシステムを構築、環境対応製品の提案に活用開始
高機能糖 ケミカル	<ul style="list-style-type: none"> ・高付加価値製品の拡販 ・大学等外部機関とのアライアンス強化 による糖ケミカル材料開発 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーツミルクの素や化粧品原料「HAGmi」販売開始 ・大学や自治体（高崎市）と連携したテーマに着手
経営基盤 強化	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ連携強化 ・サステナビリティを巡る課題への 取り組み強化 ・従業員エンゲージメントの向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品事業2期連続黒字化 ・インドアGCI、東北ユーロイド工業 業績向上 ・監査等委員会設置会社へ移行 ・社外から一定の評価（CDP：B-評価、EcoVadis：Bronze評価）

財務目標

(億円)

売上高



営業利益

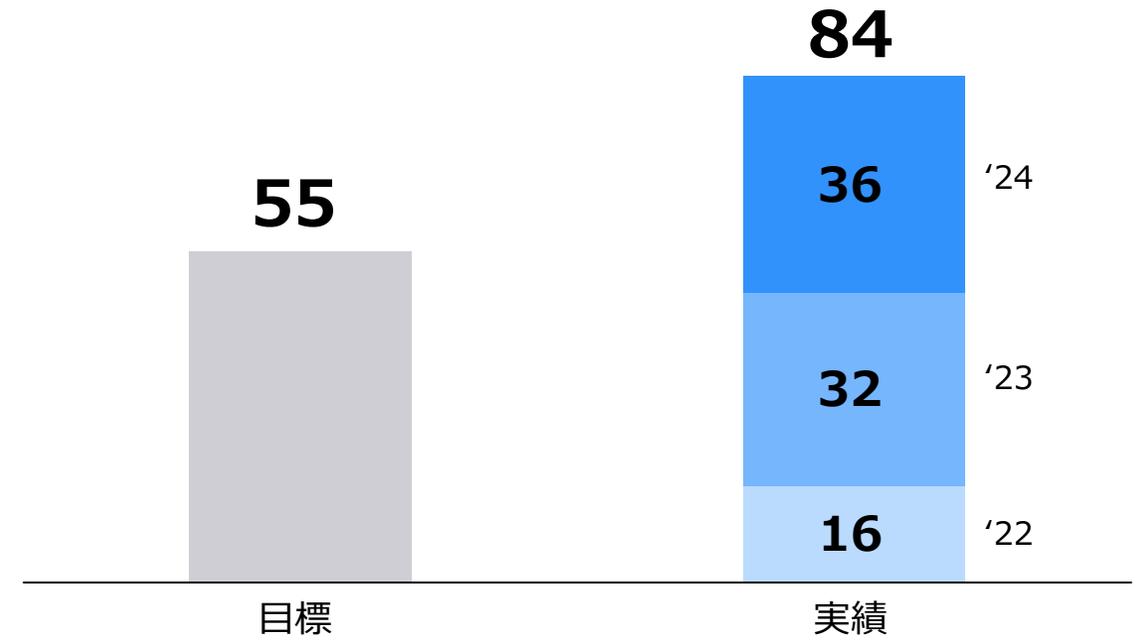
中期経営方針2024

目標未達の要因

- ・半導体市況の停滞
- ・原材料価格等の高騰
- ・工業材料分野の国内需要減少
- ・新製品販売開始も利益貢献は限定的 等

設備投資

(億円)



目標超過の要因

- ・中経2024以降に当初の想定以上の成長可能性を獲得
- ・電材新工場、カイノールライン増設が投資額を大幅引き上げ (総額35億円) (総額16億円)

将来の成長へ向けた投資を実行

用途	案件	中期経営方針2024			'25	
		'22	'23	'24		
電子材料	製造設備増設 投資額：10億円	工事・認証		稼働中 キャパ30%up		
	電材新工場 投資額：35億円			工事・認証	稼働	
環境材料 (カインール)	製造能力増強 投資額：1億円	工事	稼働中			
	製造ライン増設 投資額：16億円		工事		稼働 キャパ70%up	

外部環境

- ・地政学的リスクの高まり
- ・世界的な物価上昇
- ・高齢化/人口減少/汎用工業材料分野縮小（国内）
- ・AIを中心とした半導体分野の拡大
- ・環境負荷低減への対応強化

当社の課題

- ・電子材料分野の新規用途開発、高品質化
- ・環境負荷低減製品の開発強化
- ・縮小が進む工業材料分野への対応
- ・サステナビリティを巡る課題への対応



目指す方向性に大きな変わりはなく、中長期を見据え、
取り組み内容を見直した新たなビジョンを掲げ、持続的な成長を実現する

『 GCIグループ中期経営方針2030 』

ありたい姿

化学の力でグローバルにソリューションを提供し、社会の持続的成長に貢献する“Green Chemical Industry(GCI)”となる

基本方針

- ◆事業ポートフォリオの再構築
- ◆マーケティングによる事業領域の拡大
- ◆生産性向上、収益力強化
- ◆持続的成長を支える人材の育成、エンゲージメント向上

4つの目指す方向性

高純度・先端材料	環境対応ケミカル	新事業創出	経営基盤強化
競争優位性の獲得 <ul style="list-style-type: none"> 次世代半導体関連製品のマーケティング・開発力の強化 高純度・高品質なモノづくりのための生産技術体制構築 	Greenを中心とした次なる新事業へ（第2の柱） <ul style="list-style-type: none"> 吸脱着機能の追求と用途展開 事業を通じた地球環境への貢献 	新事業創出 <ul style="list-style-type: none"> 糖ケミカルによるGreenマテリアルの開発 マーケティング強化による新事業創出 	リソースの最大活用 <ul style="list-style-type: none"> 既存/海外事業戦略見直しによる収益最大化 サステナビリティを巡る課題解決（人材育成・デジタル化・CO₂削減）

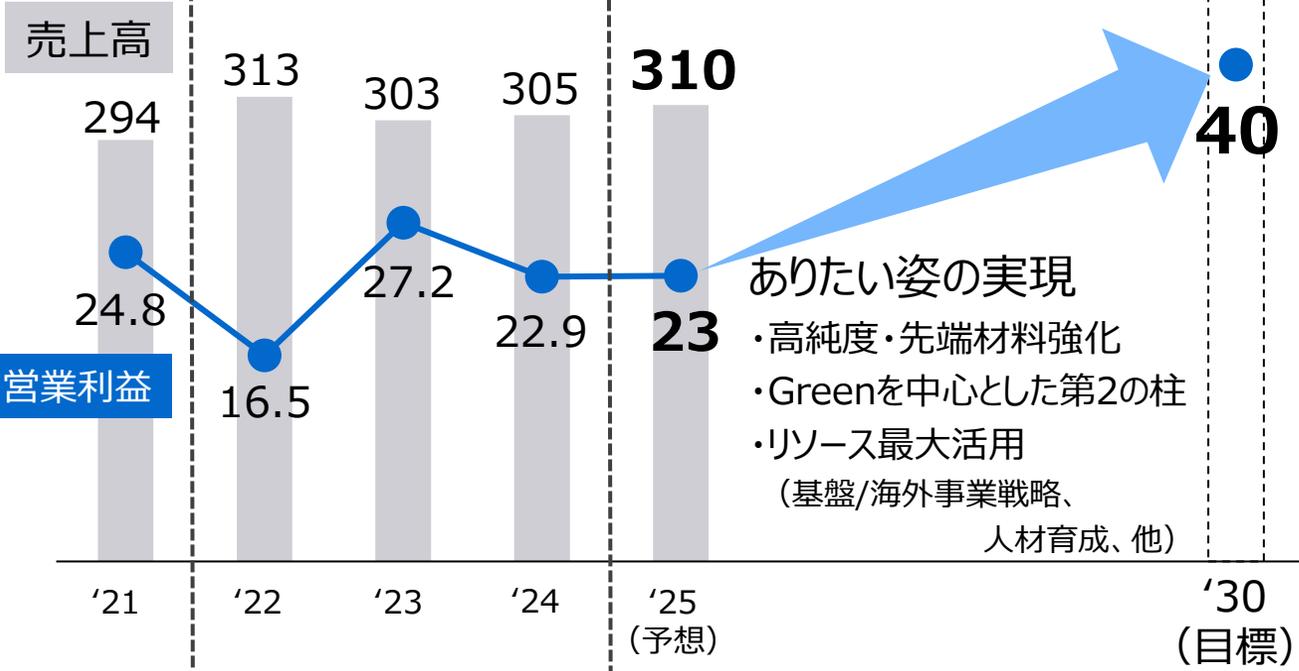
GCIグループ中期経営方針

2024

2030

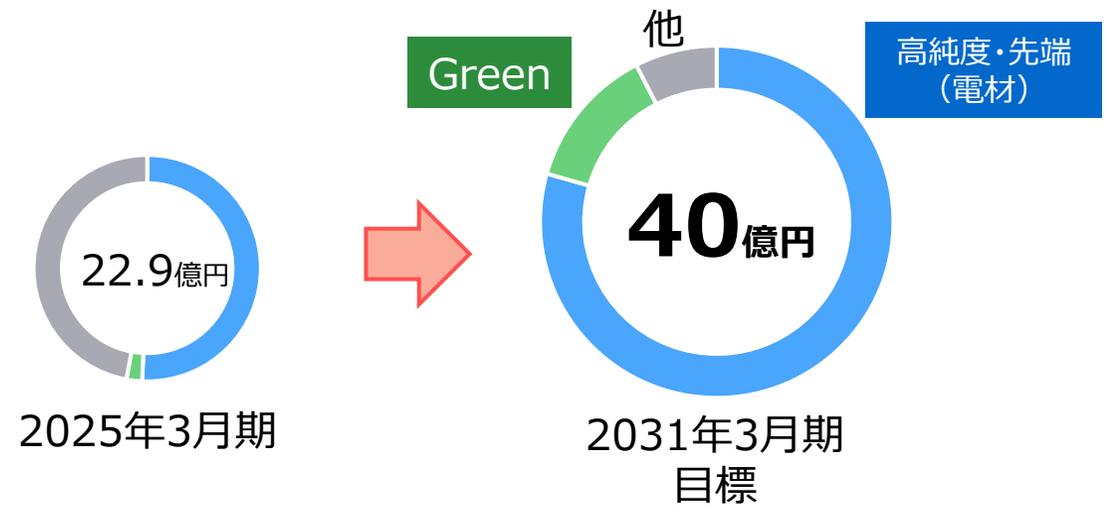
投資実行フェーズ

投資回収フェーズ
(億円)



ありたい姿の実現
 ・高純度・先端材料強化
 ・Greenを中心とした第2の柱
 ・リソース最大活用
 (基盤/海外事業戦略、人材育成、他)

	2025年3月期 実績	2031年3月期 目標
売上高	305億円	400億円
営業利益	22.9億円	40億円
営業利益率	7.5%	10%
ROE	3.9%	6%
CO ₂ 排出量削減 Scope 1・2 (2014年3月期比)	-	30%



利益構造イメージ

- 成長・合理化を行うための積極的な設備投資、株主還元の充実を図り、長期的な成長と財務健全性のバランスを確保する

キャッシュアロケーション

取り組み

キャッシュイン

キャッシュアウト

営業CF
230億円

成長・合理化
140億円

【主要大型投資】
事業投資 40億円
デジタル投資 10億円

株主還元
70億円

その他 20億円

設備投資等

- ・成長・合理化投資（電材強化、海外事業等）
- ・デジタル化投資
- ・事業成長のためのM&A資金

株主還元

- ・継続的安定配当として配当性向40%目安
- ・機動的な自己株取得

収益向上 = エンゲージメント向上

人材育成方針

GCIグループに最大限貢献できる「個」の育成、「リーダー」の育成をはかり、組織の力を最大化する

主体的に
変化を起こす力

広く興味を持って
学び続ける力

結果に責任を持ち
最後までやり遂げる力

社内環境整備方針

職場の安全、および「からだ」と「こころ」の健康を軸とした働きやすい職場環境を整備し、
多様な考え方を尊重する風土・誰もが挑戦できる風土の醸成に取り組む

人権方針

労働安全衛生

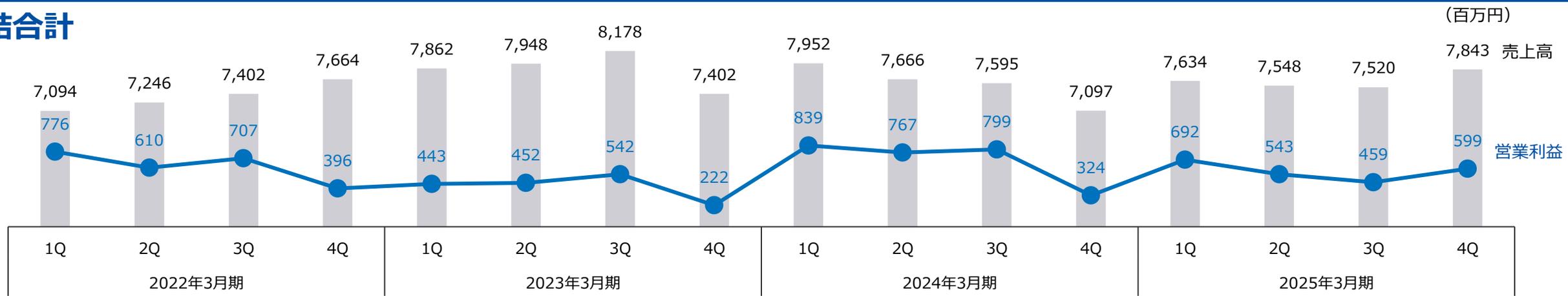
人事制度改善

教育制度拡充

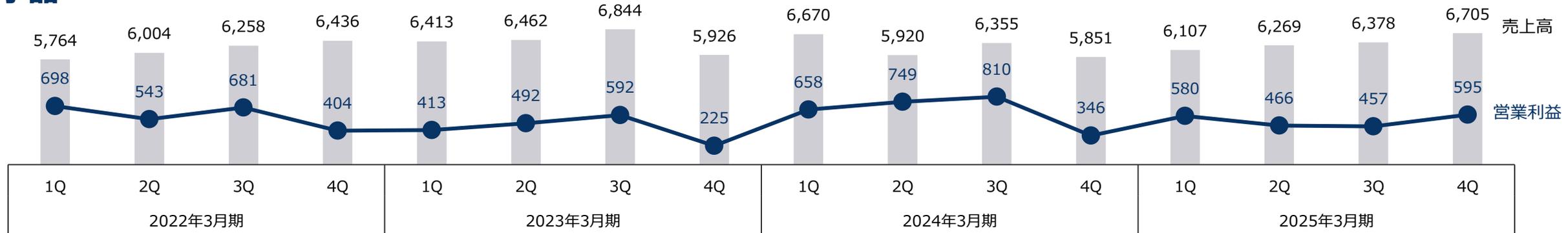
デジタル化

Appendix

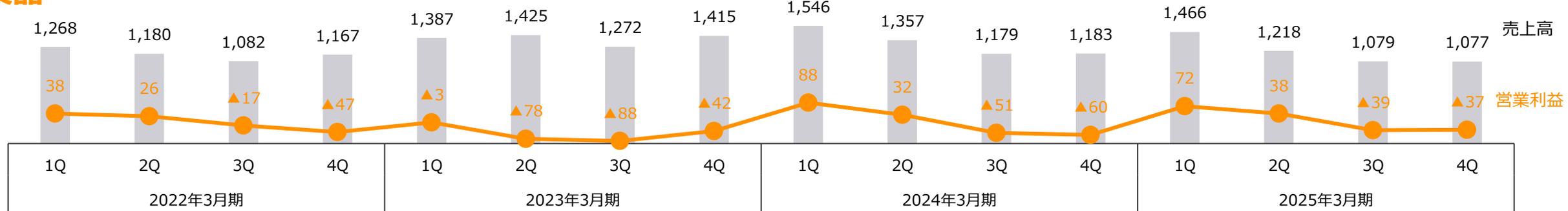
連結合計



化学品



食品



群馬県高崎市

本社・技術開発センター

群馬工場

(化学品・食品製造)

高崎支店



グループ会社

株式会社ビッグトレーディング

(派遣・業務請負)

滋賀県湖南市

滋賀工場

(化学品製造)



岩手県北上市

グループ会社

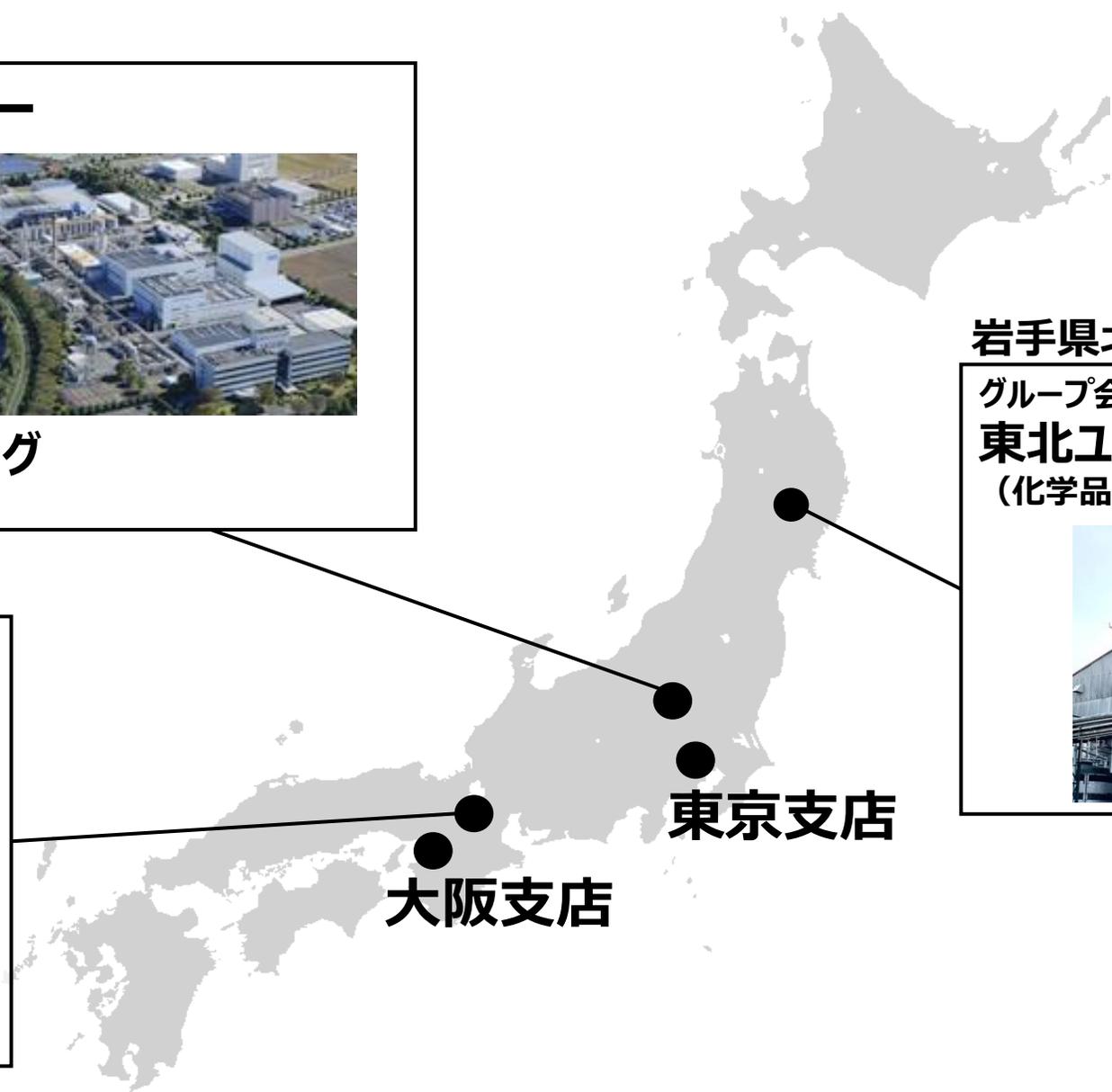
東北ユーロイド工業株式会社

(化学品製造・受託製造)



東京支店

大阪支店



Kynol



KYNOL EUROPA GmbH

● (ドイツ・ハンブルク市)

A-GCI

American GCI Resitop, Inc.

(アメリカ・イリノイ州)



● **GCI**



India GCI

Resitop Private Limited

(インド・タミルナードゥ州)



Thai GCI

Resitop Company Limited

(タイ・ラヨーン県)



E (環境)

- ・環境配慮型製品の開発
(お客様のCO2排出量削減に寄与)
- ・CDP気候変動質問書2024
「B-」(マネジメントレベル)
- ・EcoVadis
「Bronze」(上位35%以上)
- ・省エネ法
「10年連続Sクラス認定」
- ・全国みどりの工場大賞
「関東経済産業局長賞」受賞



S (社会)

- ・イベント、パートナーシップ参加
SDGsぐんま連絡会議
高崎環境パートナーシップ会議
ぐんえいまつり
- ・各種支援
女子テニス国際大会
「高崎国際オープン」協賛



G (統治)

- ・ガバナンス体制の拡充、多様性確保
監査等委員会設置会社移行
譲渡制限付株式報酬制度導入
女性取締役就任
女性管理職比率向上
- ・従業員エンゲージメント
健康経営優良法人2025認定



【 連結 】

	回次 決算年月	第104期 2021年3月	第105期 2022年3月	第106期 2023年3月	第107期 2024年3月	第108期 2025年3月
売上高	(百万円)	25,194	29,406	31,390	30,310	30,545
経常利益	(百万円)	2,451	2,815	1,939	3,162	2,716
親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	1,607	1,929	1,201	2,040	1,920
包括利益	(百万円)	2,602	1,826	1,838	4,856	2,230
純資産額	(百万円)	43,750	44,899	46,107	50,281	51,731
総資産額	(百万円)	51,984	54,680	54,600	61,010	63,018
1株当たり 純資産額	(円)	6,367.01	6,550.74	6,723.36	7,320.51	7,499.57
1株当たり 当期純利益金額	(円)	242.06	291.13	181.26	307.83	289.60
自己資本比率	(%)	81.2	79.4	81.6	79.5	78.9
自己資本利益率	(%)	3.9	4.5	2.7	4.4	3.9
株価収益率	(倍)	10.5	10.3	14.3	12.5	10.8

〈見通しに関する注意事項〉

本資料の業績予想・見通しは資料作成時点において
入手可能な情報に基づいて判断したものであり、
将来の計画数値、施策の実現を保証するものではありません

問合せ先：コーポレート本部 IR担当

TEL: 027-353-1818 (代表)